

国語（第2回）

		得点率 (%)
1 説明文	問一	43.4
	問二	78.0
	問三	33.3
	問四	51.1
	問五	38.5
	問六	84.9
	問七	84.0
	問八	65.0
2 物語文	問一	92.4
	問二	99.5
	問三	63.8
	問四	70.4
	問五	34.3
	問六	73.7
	問七	68.1
	問八	46.6

合格者最高点 91
合格者最低点 53

1 出典：岡本真一郎『言語の社会心理学 - 伝えたいことは伝わるのか』

話し手や聞き手、第三者の心理を踏まえ皮肉という表現の効用について述べた文章です。

問一 1頁上段1行目傍線1「逆転型の皮肉」とありますが、文章全体を踏まえると、どのようなことかを説明する問題です。本文で挙げられている「逆転型の皮肉」の具体例は、いずれも皮肉の相手に何らかの不満を持っているけれども、ことばの上ではほめているものですので、解答としては「相手をほめることによって、相手に対する不満を表すこと。」というようにまとめます。「ほめていると受け取られること」といった表現不足の答案が多くみられました。なお、問一のように、行数指定のある問題は、行数以内で欄外にはみださないように書く必要がありますが、字数は点数には影響しません。

問二 1頁上段15行目の2に入る五字の表現を本文中から抜き出す問題です。問一で問われた逆転型の皮肉の例にあたり、ことばの上では相手をほめていることとなりますので、正解は「ほめている」になりますが、文意から「真正のほめ」も可としました。概ね良好でした。

問三 1頁下段37行目3に入れるのにふさわしいものを選ぶ問題です。ことばの上ではほめている皮肉であり、皮肉が通じなくても悪い印象を与えないという利点が最も発揮されるのは、山村さんを本当に高く評価している人が聞いた場合ですので、正解はアです。文脈把握の難しいところで、正答率は33%にとどまりました。

問四 1 頁下段 46 行目傍線 4 「はじめから相手に通じないことが分かっている場合でも、皮肉は無駄ではない」の理由を問う問題です。これとほぼ同じ表現が、1 頁下段 66 行目「飯田さんへの皮肉の伝達はなされていないことになる。しかし、大沢さんとしては決して失敗ではない」という箇所ですので、この直後の「まず」以降の表現を利用してまとめます。要素としては、2 頁上段 68 行目「喜ばせ」たということ、そして 69 行目「皮肉を言ったこと」70 行目「皮肉を理解できなかった、ということ」が必要です。また、理由を尋ねる設問ですので、解答の文末が「～から」になるようにします。傍線箇所の前の具体例をもとに書かれた答案が多くありました。

問五 2 頁上段 72 行目傍線 4 「話し手とターゲットである聞き手に認識のズレがある」を説明する問題です。傍線部の直前に「このように」とありますから、このズレとは、この前の具体例にあるように皮肉が通じないということですから、「話し手は皮肉を言ったのに、聞き手は理解できなかったということ」というように記述します。本文の具体例をそのまま使い、一般的な表現になっていない答案が多く見られました。

問六 空欄に入れる適切なことばを選ぶ問題です。よくできていました。

問七 漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。よくできていましたが、(ア)「再三」の正答率が低く、「採算」「細酸」「最山」などの答案が多くみられました。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。皮肉が相手に通じなくても、居合わせた人が同じ考えであれば、2 頁上段 85 行目に「仲間意識も強めつつ」とあるように連帯感が生じますので、正解はアです。他の選択肢を確認します。選択肢イは、「話し手は自分の考えを反省するきっかけになる」とありますが、「話し手」が「自分の考えを反省する」といったことは本文には書かれていませんので誤りです。選択肢ウでは、「皮肉を、話し手と同じ考えを持つ人が聞いた場合、その人は皮肉を言われた当人に対して優位に立てる」とありますが、2 頁上段 6 行目「飯田さんが皮肉を理解できなかった、ということ」とあるように、優位に立てるのは、皮肉を言われた人に皮肉が通じなかった場合というのが本文の主張ですから、誤りとなります。選択肢エでは、「その人の考えに関わらず仲間意識が生じる」とありますが、選択肢アで確認しましたように仲間意識を持てるのは同じ考えの人ですので、誤りです。選択肢の文が少々込み入っているためか、正答率は 66%にとどまりました。

② 出典：市川朔久子『紙コップのオリオン』

「ぼく」こと橘論里が実行委員を務める開校 20 周年記念行事のキャンドルナイトに関する会議の場面です。

問一 3 頁上段 18 行目傍線 1 「ペットボトルを使ったりしてもいいんじゃない？ろうそくも、廃油を使ったりとか」とありますが、「ペットボトル」「廃油」を使用する案に対す

る、進藤先輩の意見として、どちらの案にもあてはまらないものを選ぶ問題です。3頁上段 23 行目から下段 39 行目までの進藤先輩の台詞のなかで、選択肢エの「事故の危険性がある」だけは進藤先輩の意見には出てきませんので、正解はエです。9割以上の正答率でした。

問二 首を使った慣用句に関する問題です。99%の正答率でした。

問三 3 頁下段 41 行目傍線3「先輩が苦笑した。」の理由を問う問題です。進藤先輩の台詞の後半、すなわち 3 頁下段 38 行目から見てみますと、「おそらくその作業のほとんどをぼくたちだけでやることになってしまうんだけど…」先輩はそう言ってみんなを見渡す」という箇所は、実行委員だけでリサイクルろうそくを作ることに對して、委員たちはどう思うかという意図ですから、ぼくと元気が「首を振る」というのは、その作業をしたくはないという意味を表しています。進藤先輩はリサイクルろうそくに対しては否定的ですので、ぼくたちの反応は結果的には進藤先輩に賛成していることになりませんが、一方で、実行委員としての仕事をいやがっているということでもありますので、正解はイです。他の選択肢を見てみます。アは「おかしくて大笑いしたいが、会議中なのでこらえなければならぬから」とありますが、「苦笑い」の意味からずれています。選択肢ウは、「二年生がそういう反応をするのはなまいきだから。」というのは文章全体から察せられる実行委員会の雰囲気には合致しません。選択肢エは「周囲からは、親しいから賛成していると見られかねないから。」とありますが、本文には、周囲の目を気にするほど進藤先輩と二人が親しいということは書かれていませんので誤りです。エとした答案が多くありました。

問四 4 頁下段 92 行目傍線4「それまでゆるんでいた教室内の空気がきゅっと硬くなった。」の理由を説明する問題です。解答するうえで着目したいのは、4頁上段 85 行目「さんせーい」「早く決めてさっさと帰ろうぜ」と4頁下段 93 行目「めんどうさいな」「せっかく決まりそうなのに」という箇所です。これを踏まえますと、「絆」という案で話が終わるかと思っていた」という要素と、「別の意見が出そうなのでめんどうくさいと感じたから」という要素が必要になります。十分な理解が感じられる答案が多かったですが、この時点では述べられていない「反対意見を述べた」といったことが書かれたものも多くありました。

問五 4 頁下段 101 行目「ちゃんと考えたほうがいい」とはどういうことなのかを説明する問題です。解答する上で着目したいのは、まず4頁上段 75 行目「いいんじゃない、最近よく見るし」という箇所と、下段 111 行目「大事だから、そんな簡単に表してちゃいけない」という箇所です。解答では「大事な開校 20 周年記念のキャンドルナイトのテーマである」という要素と「よく使う言葉だからというような安易な理由で決めるべきではない」という要素が必要です。「大事なテーマ」「最近よく見かける」といったことへの言及がなく加点されなかった答案が多くあり、正答率は4割に届きませんでした。

問六に移ります。5 頁上段 131 行目「気がつけば、手をあげていた。」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちの説明としてふさわしいものを選ぶ問題です。5頁上段 127 行

目「水原のバッグの中から、何冊ものファイルがのぞいていた。」とあり、「ぼく」は、資料を用意して会議に臨む真剣な姿勢を水原に見ています。場面は問四で見たように、終わりそうだった会議が水原の発言で延びてしまったと周囲が思っているところですので、水原は孤立しているといえます。また、「ぼく」の提案は結論を先延ばしにすると同時に、材料は決まったという今日の会議の成果も述べることで、雰囲気や和らげています。したがって、正解はウです。他の選択肢をみますと、アの「水原の主張は自分の考えとは違う」という部分は、「ぼく」の考えは文中に書かれていないので誤りです。選択肢イは、最後の「この場ではいったん三年生を立てようとした」とありますが、先ほど述べたように「ぼく」の提案は三年生を立てたわけではありません。選択肢エは、「自分が考えと同じことを水原が主張した」も、終わりの「自分たちの意見を認めさせようとした」も誤りです。よくできていましたが、誤答としてはアとイが多く見られました。

問七 A～Dに入れるのにふさわしいものを選ぶ問題です。BとCにア「そっと」ウ「すいと」のどちらを入れるかで迷ったようです。水原は堂々と反論を述べることとなりますので、手を挙げるCが「そっと」ではその気持ちの強さと矛盾しますので、「すいと」がふさわしく、また、すでに会議が始まっている教室に入る動作Bには「そっと」が適しています。

問八 本文の内容に合うものを選ぶ問題です。実行委員会では、最初にキャンドルの材料が決まり、作品づくりについてテーマが話し合われましたが、結論は出さずに終わりました。したがって、正解はイです。他の選択肢を見ていきます。選択肢アでは、「作品作りに関しては、活発な議論の末、三年生から出された「絆」という案に決まりかけた」とありますが、実際は活発な議論ではないので誤りです。選択肢ウは、「費用面のことが決め手になり」とありますが、費用のことは述べられていません。選択肢エでは、「キャンドルの材料や作品作りに関して話し合わせ、どちらもいったんは決まりかけたものの、結局、夏休み中にそれぞれが考えてくることになった」とありますが、夏休みに委員が考えてくることになったのは作品作りのテーマだけですので、そこが誤りです。誤答としてはアが多く見られました。